

令和7年度 学校評価表

(中間・最終)

学校名 三原市立大和中学校

校番(30)

a 学校教育目標	夢や目標に向けて、自ら考え、行動できる生徒の育成 ~学び合い、高め合い、地域・社会に貢献する大和中生~	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命)他者と協働し、課題の解決に向けて考え、行動できる未来の創り手の育成 【ビジョン】(自校の将来像)生徒が「学んでよかった」、保護者が「通わせてよかった」、地域にとって「地域の宝」と思える学校
----------	---	----------------------	---

評価計画						自己評価					改善方策		学校関係者評価		
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成の方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析		n 改善方策	l 評価		m コメント	
					h 達成値	h 達成値						イ	ロ		
確かな学力	基礎・基本の定着・向上を図り、活用する力を育成する。	基礎・基本の定着を図るため、授業改善を推進する。	①「R80」を核とした授業デザインをもとに、振り返りの充実を図ることで授業改善に努める。 ②「選択肢」と「自己決定」のある単元開発を行う。 ③学力に課題のある生徒への個別指導を計画的に行うとともに、放課後学習等の充実を図る。	①「授業がよくわかる」という生徒アンケートの肯定的評価【研究】 ②学力定着調査偏差値平均【教務】	①85% ②50	①87.6% ②12月実施予定	①103%	①A	①学習者の記述内容をイメージしながら授業を進め、振り返りを充実できたことがアンケートの結果に出ていると考えられる。今後も具体的な記述内容をイメージしながら授業改善を進めていく。 ②学力調査が12月に行われるため、継続して取組を進める。	①授業によって「学習内容」と「自分の姿」のどちらをまとめるか、単元構想の時点でイメージし、振り返りをさらに充実させたい。 ②放課後の学び直しの時間を引き続き計画的に実施していく。確認テストを定期的に行い、定着度を把握し、個に応じた問題に取り組めるようにするとともに、全職員で少人数指導を行い基礎基本の定着を図っていく。	○			・授業の振り返りの充実が「授業がよくわかる」というアンケート結果に出ていると思う。 ・R80を効果的に活用し、授業改善を推進することで、生徒の学習意欲や学力が高まっている。 ・確認テストは、自分の理解度の確認ができるので、自信にもつながると思う。 ・時間的に難しい面もあると思うが、個々への指導、支援をお願いする。	
豊かな心と健やかな体	積極的生徒指導の推進と心身の健康の増進を図る。	生徒理解に努め、組織的な生徒指導・生徒支援を進める。	①「ふれあい教室」の有効活用、SCや関係機関との連携など、組織的な不登校支援を進める。 ②定期的な個人面接や生徒支援委員会等の実施により生徒理解及び情報の共有に努める。	①週1回の生徒支援(生徒指導)委員会【生徒指導】 ②「学校が楽しい」という生徒アンケートの肯定的評価【生徒指導】	①100% ②85%	①100% ②85%	①100%	①A	①生徒支援委員会は毎週実施している。6月には、SCによる全生徒対象の面談を計画的に実施した。また、不登校傾向生徒への個別支援を検討するなど生徒理解に努めた。また、校内ふれあい教室を利用することで登校できるようになった生徒がいる。 ②学年間の差があり、2年生が特に低く肯定的な意見が80%であった。支援の必要な生徒が否定的な回答をしている傾向にあるため、家庭との連携を行っている。	①生徒支援委員会を中心に、生徒連携を行い、不登校対策に取り組む。ふれあい教室についても、生徒が前向きに活用できている。今後も教職員間で連携し、生徒への支援を検討していく。 ②9月に自己表現の場の設定と現状の把握のために「ここからかた」を実施した。振り返りの中でも前向きな記述が見られた。日常生活においても生徒と向き合い、自己肯定感を高めることのできるような声掛けを続けていく。	○			・自信を持った内容、特に自分をしっかりと見つめ、肯定的に自分が見れるようになれば素晴らしいと思う。先生方の「ことば」がけがなど、大切になってくる。 ・総合的な学習の時間は生徒が大きく成長する内容のようこれからも楽しみである。 ・「ここからかた」どんなものか、興味がわいた。機会があれば見てみたい。 ・今後も生徒一人一人に寄り添い、個別最適な学びを推進することで生徒の居場所づくりを進め、生徒の自己有用感や自己肯定感を高めてほしいと思う。	
		新たな価値を創造する資質・能力の育成に向けて、探究的な「総合的な学習の時間」を充実させる。	①探究的な学びを中心としたカリキュラムの開発・実践を行い、成果をまとめること。 ②小中が連携し、これまで培ってきたキャリア教育の実践を継続・発展させる。	①「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え自分で取り組んでいる」という生徒アンケートの肯定的評価【研究】	①80%	71.3%	89.1%	B	総合的な学習の時間では、自分の好きなこと・得意なことを生かす活動を取り入れることにより、自分で取り組む生徒が見られる。しかし、「課題の設定」の場面で、課題の解決に向けて、何をすべきか考えることができていなかったり、見通しがもてていなかったりする生徒もいる。	総合的な学習の時間の各サイクルの課題の設定の場面で、過去の探究の流れを想起させ、計画を立てることができるようファシリテートする。	○			・個への指導においては先生方の連携をしっかり行い、生徒の実態を共有してほしい。 ・生活習慣の改善等、保護者と連携することが必要だと思う。 ・早寝できている生徒は少ないと思っていた。スマート等の使用に関する指導が浸透しているのだと思う。	
		基本的生活習慣を確立させる。	①金のルール「早寝・早起き・朝ごはん・読書・挨拶・靴ぞろえ」の向上を図る。 ②特にスクリーンタイムの改善を図る。	①「金のルール」アンケートの肯定的評価【保健・生徒指導】	①80%	86.4%	108.0%	A	早寝に関する肯定的評価が86%と、他と比べて高くなっている。(昨年度81%)帰宅後の時間の使い方(スマート等の電子機器)による影響を大和中学校区共通の課題であるため、継続して声掛けを行っていく。また本年度10月11日から始める「元気ウイーク」においても、早寝による睡眠時間の確保を目指して、生徒への指導にあたる。	基本的生活習慣を整えることが健康や学習の基盤であることはもちろん、成長期の支えとなり将来につながっていくことについて、関連教科および学活等で伝えていく。また、「元気ウイーク」を健康的な生活習慣を実践する機会とし、日常を見直す取組となるよう、生徒委員会活動の取組との関連を図りながら継続していく。	○			・早寝できている生徒は少ないと思っていた。スマート等の使用に関する指導が浸透しているのだと思う。	
信頼される学校	地域・保護者と連携を深める。	地域に貢献する体験活動や自治活動を推進する。	①地域の方とのつながりを大切にし、日頃の感謝の気持ちをもって地域貢献活動に取り組む。 ②生徒会活動、委員会活動を活性化させ、自治的な活動を進める。	①「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」という生徒アンケートの肯定的評価【研究】	①80%	67.5%	84.4%	B	アンケート実施時期が7月ということもあり、総合的な学習の時間での取組が成果発表まで至っていないかったため、次に向けての意欲という点で低い結果になってしまった。 委員会活動や総合的な学習の時間の取組に対して目的意識をもてていない生徒がいるため、社会貢献への意欲が低い結果になってしまった。	①単元の終末に、教員および第三者からの肯定的評価を返す。また、今回の取組を生かして解決できそうな問題を考えるところまで指導する。 ②生徒会新体制のタイミングで、各委員会の目的や解決を目指す問題を設定し、取組と目的の整合性を確認するように指導する。	○			・地域との交流活動等を通して、さらに生徒が地域のことを知り、地域のために尽くそうという思いを持てるよう期待します。 ・地域の人との触れ合いを大切にしてください。 ・先生方の健康、また、時間を大切にしてほしいです。	
		業務改善を行い、働き方改革を進める。	・業務改善について日課を見直すなど校内の体制やルールを整理し、改善を図る。 ・定時退校日を徹底し、在校時間の縮減を図る。	①時間外勤務が月45時間以内の職員の割合(年平均)【教頭】	①80%	81.0%	101.2%	A	・各担当が見通しをもって、〆切を設定するなどして業務をすすめることができた。夏季休業中に2学期の行事等に向けて計画的に早めに取り掛かることが効果的であった。 ・職員全体としては、早めに退校できているが時間外勤務が多い職員が固定化していることが課題である。	・引き続き見通しをもって業務を進め、2学期後半からは来年度に向けて取り組んでいきたい。 ・業務分担について、調整を続けていく。	○				

【j:自己評価 評価】A:100≤(目標達成)
B:80≤(ほぼ達成)<100
C:60≤(もう少し)<80
D:(できていない)<60【l:学校関係者評価 評価】イ:自己評価は適正である。
ロ:自己評価は適正でない。